

2020.10 Monthly Report



写真1 / 蔵造りの川越を象徴するモダンな商工会議所

GO TO 1都6県!! コロナで久しぶりに堪能する首都圏の街並み探訪 関東には素晴らしい建物が多いことを再確認するウイズコロナの旅① ～制限だらけのなかで出遭った建物たち～

☆遠方にも近場にも「よい建物」は必ずある

GO TO トラベルやイトは始まったものの、新型コロナ騒動に収束の気配は今もない。

気配がないままに、ウイズコロナへと人々の心が比較的違和感なく向かっているようなのは、社会的動物としての一種の逞しさということなのかもしれない。

とはいえ、取材で地方を訪れると、まだまだ「東京発の人間は、地方の人々に全面的には受け入れてもらっていないなあ」と思われる場面にしばしば出くわす。

そんなこんなで今年の5月～10月にかけては、遠方取材に出られず、主に関東地方（1都6県）を中心に歩き回らざるをえなかった。

しかし、久しぶりに東京とその周辺をじっくり歩き回ってみると、「近場の取材も悪くないな」と思える「建



写真2 / オリパラの開催が待ち遠しいアクアティクスセンター

物たちとの出遭い」が少なくなかった。

今月と来月の本欄では、そんな建物たちとの出遭いの一端をお伝えしたい。

＊

まず写真1は埼玉県川越市の商工会議所の建物だ。1928（昭和3）年竣工で、当初は武州銀行川越支店として建てられた（設計・町田健二郎）。1970（昭和45）年以降は川越市商工会議所の本拠地となっており、別名、川越のパルテノンと呼ばれている由。

鉄筋コンクリート造りで、外壁に8本配されている柱のような装飾は、ドリス様式を模している。国指定の重要文化財にふさわしい重厚な造りで、埼玉県における川越の「商都」としての歴史を偲ばせてくれる物件の一つだ。

＊

写真2は一転してバリバリの現代建築。今年2月に竣工したばかりのオリンピック施設、東京アクアティクスセンター（東京都江東区）だ。来年夏に2020東京オリパラが開催されれば、競泳や飛び込み競技が実施される。江東区内にはオリパラの会場に予定されている新旧施設が10会場もある。そのうち約半分は完全な新築であるだけに、建築にかかわったすべての関係者のためにも、なんとかオリパラが無事開催されることを心から祈りたいと思う。

＊